

平成 22 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202002

研究課題名（和文）仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Research towards the Creation of a Standard Japanese-English Glossary for Buddhist Terms

研究代表者

斉藤 明（SAITO AKIRA）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学全般

1. 研究計画の概要

(1) 本研究は、二千四百年を越える歴史を刻み、アジアを中心とする世界に広く伝播した仏教の経典および論書を対象とし、そこに用いられる主要な術語の意味をそれぞれの文脈において再検証し、その上で、学界の衆知を結集して、これらの術語を現代語として蘇生させ、仏教思想のより適確な理解に資することを目的とする。

(2) 具体的には、インドにおいて成立した主要な経論 および中国、チベット、日本における撰述文献の一部を取りあげ、そこに採用される術語の定義 - あるいは主要な用例 - を抽出し、比較考察を加えるとともに、それらの基準的な訳語を日本語と英語とで確定し、その研究成果をもって、学界における本格的な検討に向け、実質的な問題提起をなすことにある。

2. 研究の進捗状況

(1) 研究代表者および分担者研究がそれぞれ研究班を構築し、連携研究者ならびに研究協力者の協力を得ながら、順調に研究を遂行しつつある。これらの成果は、国内外の学会、シンポジウム、パネル等で随時公開している。

(2) 研究代表者の研究班では、すでに仏教思想の基礎的な術語を対象として、XML 形式でのデータ構築による電子テキスト（『俱舍論』における五位七十五法の日英基準訳語および定義的用例集）を作成した。

3. 現在までの達成度

ほぼ、当初の計画に沿って進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 本年 9 月に開催される日本印度学仏教学会・第 61 回学術大会において、同テキストのデモンストレーションを行うとともに、種々の意見・情報交換を踏まえたうえで、より汎用性をもたせる形でこの秋から公開する計画である。

(2) 本年度は研究の最終年度に当たるため、学界での本格的な検討に向け、研究成果を電子媒体と紙媒体（出版）とで公開し、具体的な問題提起を行う予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

(1) Saito Akira, “Nāgārjuna’s Influence on the Formation of the Early Yogācāra Thoughts”, *Journal of Indian and Buddhist Studies* 58-3, pp.1212-1218, 2010. 査読有。

(2) 榎本文雄, 「「四聖諦」の原意とインド仏教における「聖」」『印度哲学仏教学』24. pp.336-354, 2009. 査読有。

〔学会発表〕（計 5 件）

(1) 斉藤 明 「現代版『翻訳名義大集』の構築に向けて」インド思想史学会、2007.12.

(2) 斉藤 明 「チベット語訳の特質とその諸問題」第 53 回国際東方学会議、2008.5.

(3) 榎本文雄 「初期仏教の基本的術語とその翻訳上の諸問題」同上、2008.5.

(4) 斉藤 明 「仏教用語は甦るか 仏教用語の『日英基準訳語集』および『定義的用例集』の構築に向けて」北海道印度

- 哲学仏教学会・第 81 回研究例会、2009.5.
(5) 齊藤 明「Nāgārjuna と初期瑜伽行派
の思想形成 『中論』 から 『菩薩地』
へ - 」日本印度学仏教学会・第 60 回学
術大会、2009.9.

〔図書〕(計 1 件)

- (1) Saito Akira ed., *Mahāyāna Buddhism:
Its Origins and Reality*, Acta Asiatica
96, Tokyo: The Toho Gakkai, 2009.2,
vi+126 pp.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

- (1) シンポジウム 齊藤 明 (コンヴェーナ
ー)「仏典翻訳の過去・現在・未来 『日
英基準訳語集』構築に向けて 」第 53
回国際東方学会議、2008.5.
(2) Panel: Saito Akira (Convener), “Santi-
deva and *Sikṣasamuccaya*”, XIVth
World Sanskrit Conference held at
Kyoto University, 2009.9.